

令和3年7月5日

学校法人三幸学園  
東京ウェディングアンドブライダル専門学校  
校長 高田 幸一 殿

学校関係者評価委員会  
委員長 松浦 知美

### 学校関係者評価委員会実施報告

令和2年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

#### 記

#### 1 学校関係者評価委員

- ① 松浦 知美 (株式会社らんスタジオ 店長)
- ② 山口 恵美理 (株式会社ブライダルプロデュース)
- ③ 春田 奈菜子 (第7期卒業生)
- ④ 木下 徳之 (飛鳥未来きずな高等学校 教頭)

#### 2 学校関係者評価委員会の開催状況

令和3年6月15日 (会場 東京ウェディングアンドブライダル専門学校 303教室)

#### 3 学校関係者委員会報告

以下「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

# 令和2年度 学校法人 三幸学園 東京ウェディングアンドブライダル専門学校 自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者 : 副校長 末安 由香

学校関係者評価報告責任者 : 学校関係者評価委員会委員長 松浦 知美

## 1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、ウェディング分野の学校として「最幸の結婚式を通じて、日本そして世界の家族を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、ウェディング分野として「最幸の結婚式を創り上げることを通じて、新郎・新婦だけでなく、その家族、その人生も幸せにできるNo. 1のプランナー・コーディネーターとなる人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

## 2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

### ① 前年度重点施策振り返り

#### (1) 目標

「ブライダル業界で活躍できる人材を育成する」をゴールとし、

「社会人意識を持つ→職業観を養う→自信がつく→プロ意識を持つ」というステップを2年間の育成軸として指導。

また、【授業・学校生活を通して身に付ける社会人基礎力】、【授業を通して身に付ける専門知識や技術】をベースに、2年間で必要な力を行事と連動しながら身に付けることが出来る生徒指導を行う。

#### (2) 振り返りと今後の対策

・上記目標を教員全体へ浸透させることができず、その達成度合いはクラス間、生徒個人間においてもバラつきがみられた。今後は、会議などで伝え続けるだけでなく、効果的に PDCA サイクルを回す為に振り返りの時間を設ける。

・コロナ禍の影響により、入学時研修や授業がメディア授業となったことにより、生徒と接する時間が減り、教員の生徒指導統一が難しかった。

特に社会人基礎力として求められる挨拶、リアクション、職員室の入退室、時間管理、メリハリ、主体的に情報を取りに行く姿勢、清掃等においては課題が残り、対面指導だけではなく、メディアを活用した方法での指導法の検討が必要。

## ② 学校関係者評価委員会コメント

・在学時のことを振り返ると、入学時に行われる研修で、挨拶、リアクション、時間管理、主体的に情報を取りに行く姿勢など、社会人基礎力として求められる基礎を学ぶことが出来た。そこから一年次は継続的にホームルームなどで指導して頂いたことで、顔きなど習慣化することができた。それにより、就職をした後も特に戸惑うことなく働くことができおり、業界ニーズとリンクしていることを改めて感じた。今後も継続してもらいたい。

(春田委員：ブライダルヘアメイクアンドドレス科)

・新入生の保護者様に対して、入学前に生徒のことに對するヒアリング体制があるのは、大変すばらしく興味深い。高等学校では生徒の層も専門学校生とは異なる為、生徒に歩み寄る姿勢を大切にしている。ヒアリング内容を有効的に活用してほしい。(木下委員：ウェディングプランナー科・ブライダルヘアメイクアンドドレス科)

## 3.評価項目の達成及び取組状況

### (1)教育理念・目標

【評価項目】(評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか)	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	3
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

### ① 課題

・保護者、入学希望者への周知

理念、目的、育成人材像について、在校生については入学時研修やキャリアデザイン、行事等、折に触れることで、浸透がみられるが、保護者、入学希望者へ対しての浸透状況の把握が出来ていない。特に、昨年度は新入生保護者会も実施することが出来ず資料発送のみとなったため、例年に比べても周知されにくかったと感じている。

### ③ 今後の改善方策

コロナウイルスの影響があるからこそ、新入生保護者会で理念・育成人材像・将来構想など理解いただく必要があるため、今年度は動画配信を実施。加えて、視聴後のアンケートも実施し、必要な場合にはお電話にて補足も行うことで、多方向での情報交換が可能なように体制を整えた。

### ④ 特記事項

なし

## ⑤ 学校関係者評価委員会コメント

・新入生保護者が実施できないからこそ、地元が遠方の入学希望者の場合、保護者は生徒がどのような生活を送っているか気になるのではないかな。

親世代に馴染のあるSNS(Facebook)での情報発信も安心につながる手段であると思うので検討してみてもどうか。(山口委員:ウェディングプランナー科)

・入学希望者は、上京に対する不安や、学校に対する心配も多い。保護者会だけではなく、入学前に入学予定者に対して研修を行う事で安心するのではないかな。加えて、顔見知りを作り安心感を与える良い機会になるのではないかな。(春田委員:ブライダルヘアメイクアンドドレス科)

・通信高校では、入学前の研修などは行っていないが、入学後に安心感のある学校の雰囲気重視している。通信課程の学修状況を本人と保護者が見ることが出来るような状況を整えているため、専門学校でも同様に学習状況が本人と保護者にも共有できる状況を整えるとよい。(木下委員:ウェディングプランナー科・ブライダルヘアメイクアンドドレス科)

## (2)学校運営

【評価項目】(評価=適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

### ① 課題

・情報システム化による業務の効率化

デジタル、ICT 化が進む中でコロナ禍の影響もあり、講義科目についてはメディアを活用した授業を実施してきたが、実技科目については、メディアを活用した授業対応が難しく、ほぼ登校し対面授業にての実施となった。

また、学園として導入しているLMS(学習管理システム)や Google Meet、Google classroom 等のアプリ、システムをより効率化を図るためには活用方法の検討が必要。

### ② 今後の改善方策

理解度の高い教員からのレクチャー会実施

スワイプビデオの活用方法の検討

### ③ 特記事項

なし

#### ④ 学校関係者評価委員会コメント

・ICT 教材の活用は、今後も有効だと考える。ドレスショップでは、実際に来店しなくても活用ができるツールは使用していないが、ビデオを繋いで、遠方のご両親にお仕度の様子を見せることで、喜んで頂いたり、ドレスを決める後押しをしてくれる場合もある。今後も活用の場が広がることを期待したい。(春田委員：ブライダルヘアメイクアンドドレス科・ウェディングプランナー科)

・在学中にオンラインのツールに触れる機会が多いことは有効。フォトスタジオはあまりコロナウイルスの影響を受けない職種ということもあり、特にオンラインツールの利用はしていない。本部からの研修については Meet で繋いで行っているが、技術研修の理解度に関しては、正面からの動画のみの為、細かい手の動きを見ることができず、その場での質問も難しい。その為、学校のスワイプビデオがあれば、様々な角度から細かい技術を見ることが可能になり、実技科目でも活用できる可能性が高い為、有効的な活用を検討してほしい。(松浦委員：ブライダルヘアメイクアンドドレス科)

### (3)教育活動

【評価項目】(評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格(免許)取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

#### ① 課題

・教職員の資質向上

分野における知識・技能を修得するための研修や、教員の指導力育成の研修は実施されているものの、実施、受講をして終了になっており、それを次に活かしていくための仕組み作りが必要。

## ② 今後の改善方策

行動計画まで作成し、適切に PDCA を回すことが必要。

## ③ 特記事項

なし

## ④ 学校関係者評価委員会コメント

・在学中に学んだ知識の中で、現場で特に役に立っているものとして、授業の一環でのインターンシップだと感じている。今後も力を入れてほしい。（山口委員：ウェディングプランナー科）

・受講した研修を次に活かすという点は、とても大切だと感じる。私事だと本社からの研修をオンラインで実施し、社会人基礎等全て頭にいれてから出勤という流れだったが、いくら頭に入れたと思っても、接客研修がメインの為、実践とは全く違い戸惑う事も多い。オンライン研修から実践へのつなげ方・活かし方を検討してもらえると、さらに良いのではないか。（春田委員：ブライダルヘアメイクアンドドレス科）

・企業様からの監修を頂いた教育課程が完成したことは、大変すばらしい。今後、そこからさらに磨きをかけられるように PDCA を大切にしてほしい。（木下委員：ウェディングプランナー科・ブライダルヘアメイクアンドドレス科）

## (4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
就職率の向上が図られているか	3
資格(免許)取得率の向上が図られているか	3
退学率の低減が図られているか	4
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

### ① 課題

#### ・就職率の向上

コロナ禍により、ウェディング業界も全体的に影響を受け、採用活動の中止や延期、採用枠の縮小もあり、学生の就職活動にも影響がみられた。

企業と情報交換を行い、早期の個別サポートへの取り組み、オンライン選考の効果的な対策が必要。

#### ・資格取得率の向上

メディア授業を取り入れたことにより、その対応が充分ではなかった為、対面授業と同等の学習効果を得ることが難しかった。それにより、一部検定において、前年度を下回った結果の科目がみられた。

メディア授業でも対面同等の結果を出せる検定対策内容が必要。

#### ・卒業生の社会的評価

卒業生の社会的な活躍においては、把握が出来ている卒業生とそうではない卒業生と個人差があり、全卒業生という点では課題が残る。

#### ② 今後の改善方策

・教員間で会議時間を利用し企業研究、企業情報共有を行うことで、どの教員からでも同じ情報を生徒に伝えることができる。また、オンライン選考に対する指導方法の研修を実施予定。

・メディア授業の場合の検定対策方法検討、生徒への意識づけ、検定対策週間の活用方法が重要となるため、検定教科ごとに資格・検定取得の数値目標を示したうえで、年度初めに対策を立て、教科担当が連携を強化し指導にあたっている。

・同窓会組織を利用した卒業生ネットワークの活用方法・認知方法を検討  
企業訪問を強化し、卒業生の情報収集、またインターンシップ先への訪問強化を実施

#### ③ 特記事項

なし

#### ④ 学校関係者評価委員会コメント

・就職活動について教員が生徒一人ひとりの適性を見ながら受験先企業の提案や、面接練習があることが生徒にとっては大変心強いのではないかと。離職にもつながると思うので、今後も継続してほしい。(松浦委員：ブライダルヘアメイクアンドドレス科)

・卒業生の立場では、面接練習について個人、グループともに対策を組んでもらえたことが大変良かった。今後も継続してほしい。(春田委員：ブライダルヘアメイクアンドドレス科)

・就職指導の手厚さは素晴らしい。その中で、選考スケジュールが早い企業もある為、そこに対しての対策があっても良いのではないかと。近年は受け答えの上手さよりも人柄を見ている企業が多く、一歩踏み込んだ質問が多い。一歩踏み込んだ質問に対する回答について学校側から対策、講座などのサポートがあると良い。また、コロナウイルスの影響でオンライン面接も増加しており、対面だと伝わるがオンラインだと人柄のよさなど伝わりにくい為、オンライン面接講座等も取り入れてほしい。(山口委員：ウェディングプランナー科)

・資格取得向上の対策として、検定対策週間があるのは、気持ちの面でも学習効果が違ってくる。引き続き、よりよい結果がでるよう、検定対策週間は続けるのが良い。(山口委員：ウェディングプランナー科)

## (5) 学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	3
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

### ① 課題

#### ・卒業生への支援体制

学園全体で卒業生に対し独立起業支援を実施しているが、現時点では希望者はなし。

学校と卒業生全体でのつながりが希薄な為、現状離職状況が把握できていない。加えて卒業後の学び直しの機会の提供を検討したい。

### ② 今後の改善方策

同窓会組織を利用した卒業生ネットワークの強化、内容の充実、認知してもらう為、卒業生に周知する。

また、開校 10 周年を迎えたことを踏まえ、同窓会にあわせて、卒業生向けの講習会を検討したい。

### ③ 特記事項

スクールカウンセラーの設置

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

・卒業生とのつながり強化については、ぜひ前向きに検討してほしい。まずは卒業生ネットワークの認知度を上げる必要があるのではないか。キャリアアップ、キャリアチェンジについて教員のアドバイスを求めることができるのであれば、卒業しても必要と感じてくれると思うので、卒業前に全員アプリの登録を行うと良いと考える。(松浦委員:ブライダルヘアメイクアンドドレス科)

・卒業生向けアプリ・ホームページを見ると、お得なクーポンもあり魅力的なアプリの登録を必須で行うと良いと考える。(山口委員:ウェディングプランナー科)

## (6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

### ① 課題

・インターンシップ企業との連携

在籍生徒数の増加を受け、新規開拓の必要性あり。その中でも特にブライダルヘアメイクアンドドレス科の生徒が希望するヘアメイク及びドレスショッポの開拓も急務となっている。

### ② 今後の改善方策

ドレスショッポやヘアメイク等、衣装や美容に関する企業を中心に開拓をする必要があるため、企業側へ学校の理念や育成人材像などを理解していただけるように企業訪問を実施。

### ③ 特記事項

なし

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

・インターンシップ受け入れ側からの意見として、インターンシップ期間が終わると辞めてしまう学生が多い。何らかの魅力を見つけて続けてもらえると、企業としては有難いうえ、生徒にとっても学びを深める機会になるのではないかと。生徒によっては、現実と理想でギャップを感じることもあるため、そのギャップを埋めるような対策を学校側で行ってほしい。（春田委員：ブライダルヘアメイクアンドドレス科）

・ヘアメイクアンドドレス科の生徒のインターンシップ先として、生徒の希望は、ドレススタイリスト・ヘアメイク職が多いと思うが、インターンシップの採用枠は少ないのが現状。ただし、他の職種でもヘアメイク・ドレスにつながる学びはあると思うので、前向きな意識付けをしてほしい。（山口委員：ブライダルヘアメイクアンドドレス科）

## (7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

特に問題なし

② 今後の改善方策

今後も適切な運営を継続していく

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・同学園の専門学校へ進学する生徒も多い。生徒たちにとって、悔いのない進路選択となるよう専門学校進学後も、教務・就職のサポートをしっかりと行ってほしい。（木下委員：ウェディングプランナー科・ブライダルヘアメイクアンドドレス科）

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

現在、第2次中期計画(2018年度～2022年度)の対象期間中であるが、当該計画を着実に実行すると共に今後は当該計画の公開に向けて着手していく予定である。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(9) 法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

特に問題はなし

② 今後の改善方策

今後も適正な運営を継続していく

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

なし

## (10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3

### ① 課題

・生徒のボランティア活動奨励・支援の取り組み

コロナ禍前に行っていた、生徒主体のボランティア活動等が行えていない。今後はコロナ禍の状況で可能な貢献活動を検討し取り組んでいく。

### ② 今後の改善方策

同学園姉妹校、グループ事業等と連携をし活動できる場を検討

### ③ 特記事項

なし

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

コロナ禍でなかなか難しいと思うが、地域に愛され、必要とされる学校であり続けるために、地域連携は強化してほしいと考える。（木下委員:ウェディングプランナー科・ブライダルヘアメイクアンドドレス科）

## (11)国際交流(必要に応じて)

【評価項目】(評価=適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	3
受入れ・派遣、在席管理等において適切な手続き等がとられているか	4
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	3
学内で適切な体制が整備されているか	3

### ① 課題

・留学生の受け入れ体制

毎年数名のオープンキャンパス参加者はいるものの、実際に入学をする留学生は少ないため、今後はさらに積極的に取り組む。

入学した留学生が日本で就職希望をしても、ビザの関係で就職が困難な為、卒業後の進路指導が課題。

### ② 今後の改善方策

留学生にプライダル業界や学校の認知を広める必要があるため、日本語学校との情報交換を行う

企業に留学生の受け入れが可能かヒアリングを行い、リスト可をすることで、生徒にも受け入れ企業の提示が可能。

### ③ 特記事項

なし

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

なし

## 4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

人材育成方針や具体的な目標及び計画は立てられているが、生徒や保護者への浸透は今後も課題である。

卒業生に対する社会的な活躍及び評価など現状が把握できるよう、OBOGのコミュニティ強化も必要。

卒業後、教員との関わりを持っている卒業生と、関わりを持っていない卒業生がいるため、卒業後も全員が学校側と良好な関係を保つことが理想である。

コロナ禍も踏まえ、刻々と変化をしていく社会において、そのニーズを踏まえたくえで、人材育成像に添った人材を輩出する為にも、教職員の研修教育はさらに強化していく必要がある。

また、プライダル業界で活躍できる人材育成を念頭に置き、企業との連携を深め、社会に求められる専門学校を今後も目指してほしい。